

出発
進行!

中野駅

一日平均10万人以上が乗車する中野駅。明治22年(1889年)に甲武鉄道(現JR東日本中央線)の駅として開業しました。現在は、新たな改札や駅ビルなどを一体的に整備するための工事を進めています。今号では、駅の様子やこれからについて紹介します。

駅員さんに聞きました



中野駅在籍10年
倉澤さん

どんな人が働いているのですか

現在中野駅では、アルバイトを含め80人以上が働いています。信号所や改札、ホームの担当など、仕事内容はさまざま。通常、駅員は午前9時から翌日午前9時30分までの勤務で、シフト制なので働く人が多く必要なんです。

思い出に残っているのは

2012年に中野セントラルパークが完成し、周辺に大学や企業が移転してきました。それにあわせ、北口を今の位置に移動して拡張したんです。それまで利用者は住んでいる人が中心でしたが、幅広い層の人が中野駅を利用するようになり、まちが変わると駅も大きく変わるのだと実感しました。

こんなこともやってます

年に2回の大掃除

終電後から始発前に中野駅の関係者が集まり、線路内のごみを拾います。駅員だけでなく、駅構内の店舗で働く人なども。写真は昨年12月末に47人が参加した時の様子。

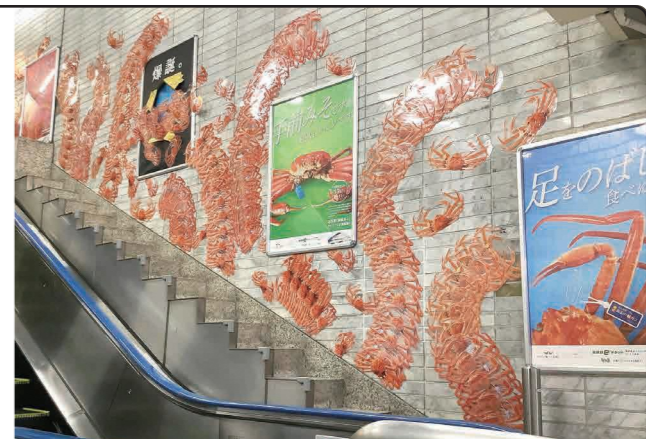


▲中野駅は電車区(車庫)がある数少ない駅

中野駅の見どころや裏側を紹介

大量のカニが飛び出してくる壁!?

中野駅の社員が企画して作った北陸新幹線PRのための展示。5・6番線のエスカレーターの壁に、3月下旬まで掲示されていました。カニの展示は2回目で、SNSなどでも「怖い」「面白い」と話題に。



社員の仮眠室

仮眠室には、時間になると背中後ろの袋に空気が注入され、強制的に起きることができる起床装置を完備。短時間でもぐっすり眠れるよう、寝心地の良いマットレスを使用しています。



赤ちゃんもほっとする空間

南口の改札内のベビー休憩室。おむつ替えや授乳ができる広めの個室で、赤ちゃん連れの方の心強い味方です。

中野駅営業開始、明治22年4月11日

開業から130年以上の歴史がある中野駅。当時を伝える貴重な看板が、駅長室に飾られています。



歴代駅長の中に込められた安全への思い

駅長室には初代から現在の駅長の氏名が木札で並べられています。その中に、「東日本大震災発生」の文字が。これは、震災を第二の出発点として忘れないようにとの思いから。「設備の補強や災害用品の点検など、みなさんが安心して利用できるように努めています」と駅長。



▲明治39年ごろの様子。中野駅は現在より100mほど西側にありました。令和8年には、当時の場所に新たな改札が誕生する予定

航空写真で見る100年



大正7年(1918年)
駅周辺には雑木林が広がる



昭和42年(1967年)
現在の区役所は翌年(昭和43年)9月に竣工



平成30年(2018年)
サンプラザなど大きなビルが建ち並ぶ



駅周辺のイメージ。令和8年には中野駅新改札・西側南北通路が、同9年には駅ビルが竣工予定

これから

集うだけでなくつながる駅へ

中野駅は電車区と車掌区がある鉄道の要所で、JR東日本と東京メトロの改札が一つになっているのも特徴です。エレベーターがなく、コンコースが狭いので、リニューアルにあわせてバリアフリーを進めたいです。お客様の安全を守りつつ、これからは集うだけでなくまちと人とが更につながる駅として、情報を発信していきたいですね。

駅長さんに聞きました



穴田駅長

次ページで、新しくなる中野駅について紹介します

4ページへ